座談会　横浜ウォーターが推進する〝公営力強化〟の原動力

自治体OB社員が語る横浜で生きる事業体経験とやりがい、そして貢献

横浜ウォーター（YWC）は、創設以来、着実に取り組んできた国内外における支援事業が成果を上げ、国内外から多様なニーズが寄せられている。その成果の背景には、横浜市をはじめ地方公共団体の現場で培ってきた上下水道事業運営ノウハウを持つ自治体OB社員の活躍がある。現場に寄り添った活動と他にはないビジネスモデルを構築し、〝公営力強化〟に貢献してきたYWCで活躍する9人の自治体OB社員の方々に、YWCでのやりがい、現役の自治体職員のスキルアップに向けて語り合ってもらった。

■自治体職員時代のキャリアとYWCで生きるスキル

林下　私の自治体職員としてのキャリアは下水道からスタートし、その後、都市計画に長く従事しました。

2年間フィリピンに長期専門家として派遣された経験は語学力と都市計画経験をさらに磨くことができ、下水道を含めたインフラ整備・運営を進めるマインドが醸成されたと考えています。

こうした財産をもとにYWCでは、自らにとっても「何ができるのか」、「何が役立てるのか」を考えながら、仕事ができる環境を与えていただきました。

梅原　私は、自治体職員としての約33年の経験のうち、その多くは下水道関係に従事しました。入庁前は弱電関係の仕事をしていたので、下水道インフラの業務では強電設備を担当し、当初はとても戸惑いました。下水道の電気設備は弱電から強電まで幅広い知識が要求されます。そのため、電気主任技術者の資格を取得して積み重ねた知識と現役時代の経験が今に生きていると思います。

また、下水道施設維持管理に従事し、その後、建築設備保全に関する業務を経験してきたことも、YWCでの業務に生かされていると思います。

桐原　私は基本的に下水道、その中でも排水施設を中心とした「下流側」の水の仕事に長年従事してきました。私が横浜市に入庁した昭和50年ぐらいまで市内は建設ラッシュで、毎年4～5%の下水道普及率を上げていく時代でした。

退職後は施設管理関係の仕事をしていたのですが、やり残したことも含めてどうしても水の仕事をもう一度やりたいと思い、YWCへの縁を得ました。自分の足で歩き、水の流れを追う仕事が性に合います。現場に出向き、水の業務に従事できることは大変ではありますが、とても楽しいと感じています。

佐野　私は昭和48年に横浜市に入庁して下水道局で約22年、その後は（道路局の）土木事務所で道路業務等に従事しました。一番の思い出は、YWCの社屋から見渡せるみなとみらい地区の幹線下水道を整備したことです。当時、下水道での10㎞規模の大口径シールドは初めてであり、最小曲線半径が125R。現在の神奈川水再生センターを発進基地とした1㌔㎞ほどの距離を担当いたしました。それをやってくれと言われたときには、これまで経験した仕事とあまりに規模が違うので苦労しましたね。

監督支援業務については、今までやってきた経験がものすごく生きていると感じています。施工監理では業者さんから、行政との間にYWCが入ることにより、工事進捗がスムーズに行えた、と非常に嬉しいお言葉をいただいています。

国本　私は横須賀市に入って36年間水道事業に従事していました。入ったときは建設ラッシュで1年目から配水池の築造や大きいシールド工事などを諸先輩方に教わりながらやってきました。その後、建設から維持管理に変遷するなか大規模な建設だけではなくお客さま対応や修理などもたくさん経験しました。

「役立てること」を自問　動くことで得る学び

YWCでは、横須賀市での経験と横浜市のノウハウの双方を生かし、何か役に立てるのではないかと思い、入社しました。事業体支援を通じて各地方の事業体職員の皆さまを大切な自分の後輩と思って接しさせていただきながら、これまでの経験に基づく支援ができるのは大きなやりがいです。一方で、YWCの支援がないと成り立たない事業体になってはいけないと感じています。忙しいですが、体力が続く限りそういう想いを持ってやっていきたいと思っています。

竹内　私は昭和53年に横浜市水道局に入局しました。当時は給水装置工事の分岐穿孔も横浜市職員が直営で行っていた古き時代です。35年間の大部分が給水装置に関する部署でした。

退職2年ほど前に、横浜ウォーターが実施している定番研修用のマニュアルと説明用のパワーポイント製作に携わり、研修講師を担当したことが始まりでした。現役時代にやってきた経験をそのまま継続してできていることが、自分自身では一番ありがたいことだと思っております。

鈴木（好）　私は大学を卒業して4年ほど民間企業で半導体の開発をしていました。その後、横須賀市に入庁し、浄水課に電気職として配属されました。おかげさまで維持管理から計画まで電気関係は全て担当することができました。その中でも、初期の水運用総合管理システムの構築に携わらせていただいたことは大きな経験でした。浄水部門では市内や神奈川県内の水運用と、浄水場の運転管理もやっていた知見や経験が今の仕事にもとても生きています。

八橋　私は横浜市水道局に38年いて、そのうちの大体半分ぐらいを経理課、4分の1ぐらいを国際事業関係で派遣者支援と研修受入れ、その他は浄水場と水道事務所の維持管理に携わりました。

入庁当初は、手作業で伝票を書いて記帳するまでやっていたので、そのおかげで経理の実務が具体的にわかるようになったといっても過言ではありません。それが今の今になって、実に役に立っています。

旧自治省に派遣された経験の中で、原点に立ち戻るという癖がつき、そのときに培った経験も役に立っています。

YWCでの仕事はお客さまが困っている課題にダイレクトに向き合い、解決策を提案し、ご一緒に伴走しながらカイゼンしていく流れがあるので、初めて人の役に立っている実感を得られます。

鈴木（壯）　私は38年間、藤沢市におり、長く下水道の仕事に従事してきました。かつて藤沢市には下水道部という組織はなく、土木部の中で下水道の業務をしていました。その後、下水道も部として独立すべきと提言し、6年前に下水道部を立ち上げて初代部長を務めさせていただきました。

YWCの存在は知っていましたが、横浜市で長年従事されたプロフェッショナルが集まっていますから、ご一緒にできるかという不安はありました。ただ、自治体の中で

自分の足で、手で、現場第一の企業風土の中で

水の仕事の魅力　国内外の未来の担い手に伝え

の下水道の重要性の認識を深めた経験や市民、議員と向き合ってきた経験を今の仕事にも生かせればと思い、YWCに入社する縁を得ました。

■YWCでの仕事

林下　海外のプロジェクトを担当していると若い方々とご一緒する機会が多く、そのエネルギーに圧倒されることもあります。それに対して、日本で培ってきた自分の経験を持って、何が世界に貢献できるのかを常に考えるように意識しています。「横浜ウォーターがいないと困るよね」と思ってもらえるような仕事をすることが私の原点になっていると思います。

YWCの海外部門は「上下一体」です。分野の垣根なしに気軽に話もできます。コンサルタントをはじめ、外部のパートナーの連携の中で力を養いつつ、YWC独自の強みをより一層身につけていくことが大切だと思っています。

梅原　入社後に官民連携事業のモニタリングと新電力事業の立ち上げに携わることになりました。いずれも全く未経験の事業でしたが、一から学び、形にしていくことは本当に大きなやりがいを感じました。

YWCの良いところは、働きやすさを重視してくれる点だと思っています。われわれ自治体OBにとっても、プロパー職員にとっても垣根なくコミュニケーションを取れる働きやすい環境があります。こうした環境の中で、若手のプロパー社員をしっかり育てていくことで、持続的な会社の成長がより一層実現できるのではないかと感じています。

桐原　公共の仕事をしていると、どうしても仕事の中に公共の線引きがあります。一方、YWCは株式会社としてお客さま相手に仕事をしているのでサービスや製品に対する捉え方の幅が広がります。下水道の仕事においても、排水設備をはじめ民地に入ってお話をする必要があります。市民に説明をするなかでは横浜ウォーターへの認識は決して高くないので、われわれの仕事をきちんと説明することも必要です。このようなやりとりしながら解決することは個人的にはとても面白くて、非常にやりがいを感じています。

公共の立場だと自らの業務領域の責任がはっきりしているので、水道についてはそれほど知識がなくても良かったのですが、YWCでは、水道についても知る必要がありますし、水道のプロフェッショナルの方とともに仕事ができます。お客さまの目線に寄り添って水道をはじめ幅広く勉強させていただけるのは非常によかったと思っています。

竹内　現役時代からやってきた経験が、現役を退いた今もストレートに仕事に役立つというのは、これほどありがたいことはないです。なおかつ、後輩や新人に経験や知識を伝承することができ、人材育成に貢献しているという実感は本当に嬉しいことです。そして国内の多くの事業体との仕事は、この年齢になっても大きな学びがあります。担当者の悩みや相談を直接お会いしてお聞きする中で、多様な考えに直接触れることは本当に勉強になります。

佐野　私は根っから現場が好きな人間だと思っています。現場に出て現場代理人さんや作業員の方々と会話をしながら現場を進めていくことが非常に楽しいです。

YWCに勤めるなかで、われわれOBと若手が一緒になって、今の世代を引っ張っていけるような仕組みや活動を活発に行い、こうした取組みが全国に広がればいいなと強く思うようになりました。

人に、地域に、社会に　貢献できる喜びが誇り

国本　YWCとして災害派遣を経験したことが印象に残っています。当社が長年支援している山元町への地震災害派遣でしたので、施設の配置や状況は十分に分かっています。民間企業ならではの機動性があり、かつ、われわれができることも明確で、早期復旧に役立っているという実感は、本当にありがたい経験でした。

自治体職員時代にも災害派遣を何度か経験しているのですが、「もっとできることがあったはず」という悔しい思いが残っていました。

YWCの国内支援事業は、困っているところにわれわれの経験を生かして支援できている実感がとてもあります。長い関係の中で信頼を得て、われわれを頼りにしてくれているのはすごくやりがいがあります。こうした環境の中で、うまく人を育て、回すことができれば、さらに成長できると思っています。

鈴木（好）　他事業体の業務をしていると、自分の経験はどうだったのかと思い返す機会になります。それが最終的には支援している事業体の役に立っていると思うとともやりがいを感じます。

皆さんも言われていますが、過去の経験、自分の専門分野に捉われずに水道事業を教えられるのはYWCの良いところだと感じています。

OBとプロパーの人員をバランスよく配置しながら組織構成に取り組んでいけば、もっともっと面白い会社になると思います。

八橋　私のいる経営計画室は横浜市OBや退職派遣が4人、残り4人は全員プロパー職員です。例えば同じ土台で同じことを喋っているのに役所出身者とプロパーでは受け止め方が違うというか、十二分に受け止められないところがあって、そうしたさまざまなズレを埋めるコミュニケーションを意識的にしています。

当社のお客さまは、基本的には地方公共団体ですので、みんなで何となくの世界感を分かち合うことができるのもYWCならではの特徴です。プロパー、退職派遣職員が育つ環境もできているのではないかと思います。

■現役自治体職員へのメッセージ

鈴木（壯）　その世代ごとに固有の課題があると思います。技術者としていかなる貢献ができるのかを考えながら仕事に取り組んでほしいと思います。長い年月、貢献していくものと考え、携わる業務にしっかりと向き合い、育むことが大切だと思います。水に関わる問題は、都市の課題として永遠に存在し続けますし、その時々で、新たな課題も出てきます。長い年月の中で想いを持って自分が何をできるのか、目標を持ってやってもらいたいと思います。YWCに入り、現役世代、他の事業体の方と仕事をする中で、より一層その思いを強く感じています。

八橋　私は政令指定都市の水道局で一貫して働いていたので、公営企業の世界をじっくり経験できましたが、自治体の組織が小さいほど公営企業に関わることは稀なケースとなります。公営企業で複式簿記の世界を経験すると、一般会計に帰ったときに物事を見る角度が変わります。それが即適用できるわけではないかもしれませんが、メリットは必ずあります。どんな職種の方でも水道・下水道の仕事に関わる以上、公営企業は無縁ではありませんので、そこでがっちりやっていただくと、新しい世界が開けると思います。

鈴木（好）　水道事業の面白さを知ってもらって、好きになってもらいたいなと思います。今やインフラ整備が行き届き、そうした経験が少なくなっているかもしれませんが、例えば、地震災害後に水が出たときの皆さんの嬉しそうな顔。あいうところを見ながらやっぱり水道いいなって感じる機会があればと思います。そして、専門職であっても事業を広く見てほしいと思います。水道全体を知り、その上で自分の専門を生かそうとする技術者を目指してほしいですね。

竹内　水道事業全般の課題として自治体における専門職員等が少なくなり、アウトソーシングが増え、かつ通常業務も忙しい中で、他事業体の動向を得る機会がますます減ってきている気がします。災害支援の話題も出ていますが、他事業体への関心を普段から持っている中でいくのと、そうでないのでは、経験も価値も変わってきます。他事業体に関心を持つこと、コミュニケーションを取ることの大切さをYWCで働くようになってより強く感じています。まずは他事業体の動向を探り、意識を高めてもらえればいいと考えています。

国本　若い職員の方々と接して感じることを端的に言うと、失敗を恐れる風潮が強いなと感じます。チャレンジをしていいという職場の雰囲気が乏しいということも影響しているのかもしれません。チャレンジは楽しむことでもあります。楽しみながら仕事をしないと続かないし、仕事が自分の身にもならないと感じます。チャレンジできる職場を作れるかどうかは、管理職次第でもあるので、管理職の方々も頑張ってほしいと思います。

林下　振り返れば運に恵まれたことも多いですが、運を得るための縁も大切にしてほしいなと思います。転がってきた運を普段からものにできるように感覚を研ぎ澄ましておく必要があります。YWCでは現場で仕事させていただいていることもあり、私の年齢でも未だに感覚を研ぎ澄ませるということはちゃんとできてるなというのが実感です。そのおかげでしっかりいろんなことをやり続けていられるということがすごい幸せだなって思っています。

――最後に、皆さんの話を伺って、YWC鈴木慎哉社長から感想をいただきたいと思います。

鈴木社長　皆さまとは、各支援業務案件を通じて普段から状況をお聞かせいただいたり、さまざまな社内イベント等を通じてコミュニケーションさせていただいておりますが、こうしてじっくりと想いをうかがえることができ、本当に貴重な機会となりました。ありがとうございました。

皆さまとご一緒させていただいて常に感じることは、長らく上下水道の道に携われ、それぞれの領域で素晴らしい直営ノウハウを養われ、その経験等を生かして各事業体に寄り添い、伴走していただきながら成果を発出していただいた結果、社内外にはたくさんの皆さまのファンがいらっしゃるということです。皆さまの現場と担当者に寄り添った取組みを通じてたくさんの方々が皆さまのファンとなり、長いお付き合いにつながり、その輪が堅調に広がっております。

YWCは官と民の良さを融合しているから他とは違うぞ！面白いぞ！って思っていただけるYWCならではのサービスの提供と組織活動の継続・進化、その発信と交流を絶え間なくしていくことで魅力と活力をもって上下水道業界、そして地域に貢献できたらと思います。

その原点として引き続き、皆さまには遠慮なく楽しんで仕事をしていただきたいと思いますし、世代や職域、地域を越え、上下も縦横も関係なく、互いを尊重しつつ、やりたいことや言いたいことが言える環境づくりを進め、これからも他にはない横浜ウォーターならではを創造していきたいと思います。今日はありがとうございました。

佐野　私らが若いころは、問題があれば係員同士で話し合いました。今はそういう時間が取れないのかもしれませんが、パソコンにメールを送れば済んじゃう時代だからこそ、顔を付き合わせて職員間の話し合いをいっぱいやってほしいなと思います。話し合うことが大切というよりも、空気感が分かることがだと思います。空気感が分かるコミュニケーションを大切にしてほしいですね。

桐原　当然のことながら、自治体には法律的な制約、予算的な制約があって、説明を必要とする場の中でもなかなか説明しきれないときもあると思います。ただ、市民の方とお話をしていると、「役所の人はあまり聞いてくれないんだよ」っていう声が返ってくるんです。自分への反省も含めて、大事なのは市民の話をまず聞いた上で、役所の意見もきちんと言えること。現役の人は忙しいことも承知していますが、聞くことによって、向こうの理解してないことに対しての説明ができる。そこでコンタクトが取れると信頼感を得られます。現役の方には、そういう関係性の構築を大切にしてほしいなと思います。

梅原　皆さんも言われるように、全体を見ることを意識してほしいなと思います。もっと言うと、下水道事業は何のためにあるのかを考えてほしいですね。下水処理では生物処理をしていますから、全体の処理の流れを理解し、どういう運転をすればいいのかってそこまで考えた上で、維持管理計画が立てられている。現場に出たら視野をもっと大きく持って何が本当に処理場にとって大事なのかっていうことを考えながら仕事に当たってほしいなと思います。

林下　振り返れば運に恵まれたことも多いですが、運を得るための縁も大切にしてほしいなと思います。転がってきた運を普段からものにできるように感覚を研ぎ澄まし

皆さんも言われている通りで、若い人たちには専門領域以外にも興味を持って首を突っ込みながら、やってほしいなと思います。

佐野　私らが若いころは、問題があれば係員同士で話し合いました。今はそういう時間が取れないのかもしれませんが、パソコンにメールを送れば済んじゃう時代だからこそ、顔を付き合わせて職員間の話し合いをいっぱいやってほしいなと思います。話し合うことが大切というよりも、空気感が分かることがだと思います。空気感が分かるコミュニケーションを大切にしてほしいですね。

桐原　当然のことながら、自治体には法律的な制約、予算的な制約があって、説明を必要とする場の中でもなかなか説明しきれないときもあると思います。ただ、市民の方とお話をしていると、「役所の人はあまり聞いてくれないんだよ」っていう声が返ってくるんです。自分への反省も含めて、大事なのは市民の話をまず聞いた上で、役所の意見もきちんと言えること。現役の人は忙しいことも承知していますが、聞くことによって、向こうの理解してないことに対しての説明ができる。そこでコンタクトが取れると信頼感を得られます。現役の方には、そういう関係性の構築を大切にしてほしいなと思います。

梅原　皆さんも言われるように、全体を見ることを意識してほしいなと思います。もっと言うと、下水道事業は何のためにあるのかを考えてほしいですね。下水処理では生物処理をしていますから、全体の処理の流れを理解し、どういう運転をすればいいのかってそこまで考えた上で、維持管理計画が立てられている。現場に出たら視野をもっと大きく持って何が本当に処理場にとって大事なのかっていうことを考えながら仕事に当たってほしいなと思います。

林下　振り返れば運に恵まれたことも多いですが、運を得るための縁も大切にしてほしいなと思います。転がってきた運を普段からものにできるように感覚を研ぎ澄まし

座談会出席者　カッコ内は出身自治体

上下水道部 下水道企画室下水道事業推進（横浜市）
梅原 伸一氏

上下水道部 下水道プロジェクト室下水道事業推進（横浜市）
桐原 隆氏

上下水道部 上水道企画室長水道事業推進（横須賀市）
国本 一郎氏

上下水道部 DX推進室水道事業推進（横浜市）
竹内 孝志氏

上下水道部 上水道企画室（横須賀市）
鈴木 好平氏

上下水道部 担当部長（藤沢市）
鈴木 壯一氏

上下水道部 下水道プロジェクト室下水道事業推進（横浜市）
佐野 栄一氏

上下水道部 下水道企画室海外事業推進（横浜市）
林下 幸造氏

プロジェクト統括部経営計画室室長代理（横浜市）
八橋 雄介氏